

シオニズムとナチズム：文字通り同じコインの両面

1934年9月、ヨーゼフ・ゲッベルスのプロパガンダ新聞 **Der Angriff**（攻撃）は特別な特集を発表しました。SS将校レオポルド・フォン・ミルデンシュタインがシオニストの役人クルト・トウヒラーと共にパレスチナを訪れた際の12部構成の旅行記です。このシリーズを宣伝するためには、ゲッベルスはニュルンベルクで記念ブロンズメダルを鋳造させました。メダルの片面にはダビデの星と「**Ein Nazi fährt nach Palästina**」（「ナチがパレスチナへ旅する」）という刻印が、もう片面にはハーケンクロイツと「**Und erzählt davon im Angriff**」（「そして **Der Angriff** でそのことを語る」）というフレーズが刻まれていました。

このメダルは、一時的ではあるが衝撃的な現実を捉えました。ナチの役人とシオニストの指導者は、ユダヤ人のパレスチナへの移民に共通の関心を持っていました。ナチはドイツを **judenrein**（ユダヤ人から解放された状態）にしようとし、シオニストは将来の国家を人口で満たそうとしていました。彼らの協力は、実際的かつ機会主義的であり、1930年代に繁栄しました。

背景：ヨーロッパのナショナリズムとユダヤ人の排除

19世紀には民族ナショナリズムの台頭が見られました。これは、民族、言語、「血」によって定義される各民族が自らの国家に住むべきだという信念です。これは、イタリアとドイツの統一や、オーストリア＝ハンガリー帝国およびオスマン帝国でのナショナリストの反乱のためのイデオロギー的燃料でした。

この新しい秩序の下で、少数派グループは苦しみました：

- ロマ（ジプシー）は追放され、ステレオタイプ化され、後にナチによって絶滅の対象とされました。
- ポーランド人はプロイセンでのドイツ化とツァーリ帝国でのロシア化によって抑圧されました。
- チェコ人、スロバキア人、ウクライナ人、南スラブ人はオーストリア＝ハンガリーで抑圧されました。
- アルメニア人はオスマン帝国で虐殺され、ジェノサイドにさらされました。
- バスク人、カタロニア人、ブルトン人、コルシカ人はスペインとフランスで抑圧されました。
- ソルブ人、デンマーク人、フィンランド人、バルト人はプロイセンまたはロシアの支配下で同化または抑圧されました。

これらのグループの多くは、権利や独立のために戦うことで対応しました。一方、シオニズムは、ユダヤ人の抑圧の解決策はヨーロッパ内の平等ではなく、パレスチナの植民地化であると主張しました。

シオニズムの前提としての反ユダヤ主義

反ユダヤ主義はナチ以前に広く存在していました：

- **ドイツ**：ヴィルヘルム・マルは1870年代に「反ユダヤ主義」という言葉を作り出しました。
- **フランス**：ドレフュス事件は深い反ユダヤ主義を明らかにしました。
- **ロシア**：ポグロム（1881-1905）は何十万人もの人々を亡命に追いやりました。
- **オーストリア**：ウィーンの市長カール・ルエガーは反ユダヤ主義でキャリアを築きました。
- **ハンガリー、ルーマニア、ポーランド**：血の讐言、クオータ、ポグロム。

シオニストは、反ユダヤ主義をユダヤ人がヨーロッパに属さないという確認と解釈しました。ヘルツルの **Der Judenstaat** (1896) は、反ユダヤ主義は決して消滅しないため、ユダヤ人には独自の国家が必要だと結論付けました。

シオニスト-ナチの収束

1933年の覚書

1933年6月21日、ドイツのシオニスト連盟 (ZfD) はアドルフ・ヒトラーに覚書を送りました。それは次のように述べています：

「人種の原則を確立した新国家を基盤として、我々は我々のコミュニティを全体の構造に適合させ、我々に割り当てられた領域においても、祖国のための成果を上げる活動を可能にしたいと考えています…なぜなら、我々も異人種間の結婚に反対し、ユダヤ人グループの純粹性の保持を支持しているからです。」

ハーヴァラ協定 (1933-1939)

1933年8月25日、ナチス・ドイツとユダヤ機関はハーヴァラ協定（「移転」）に署名しました。

- **メカニズム**：ドイツのユダヤ人はドイツの銀行に資産を預け、その資金はドイツ製品の購入に使用され、パレスチナに輸出されました。移民者はパレスチナで現地通貨で収益を受け取りました。
- **結果**：ハーヴァラの下で約60,000人のドイツ系ユダヤ人がパレスチナに移住しました。
- **影響**：ドイツの輸出とシオニストの開発を促進し、国際的なユダヤ人ボイコットを弱体化させました。

Der Angriff とミルデンシュタイン-トウヒラーの旅

1933年春、シオニストの役人クルト・トゥヒラーは、ナチのメディア報道を通じて移民を促進するためにSS将校レオポルド・フォン・ミルデンシュタインに接触しました。ミルデンシュタインとその妻はトゥヒラー夫妻と共にパレスチナを旅し、テルアビブ、キブツ、イエズレエル渓谷、サフェド、ヘブロン、エルサレムを訪れました。

この旅は、「**Ein Nazi fährt nach Palästina**」（「ナチがパレスチナへ旅する」）というシリーズを生み出し、1934年9月26日から10月9日まで **Der Angriff** に掲載されました。

「**Ein Nazi fährt nach Palästina**」（1934）

ナチがパレスチナへ旅し、**Der Angriff**でそのことを語る

各パートにはシオニストの入植地や開拓者の写真が含まれていました。以下は選抜された抜粋です。

パート1 – Aufbruch nach Erez Israel（9月26日）

「ベルリン駅で、ユダヤ人の若者が列車に乗り込んだ。彼らはヘブライ語の歌を歌い、その声は楽観に満ちていた。彼らは別れを叫んだ：シャローム！ …それは再建のために出発する民族の呼び声だった。」

パート2 – Ankunft in Haifa（9月27日）

「ハイファの港では、アラブのポーターが叫びながら貪欲な手で荷物を掴んだ。対照的に、移民局のユダヤ人職員は秩序と規律をもって私たちを迎える、書類は慎重に準備されていた。」

パート3 – Tel Aviv, die jüdische Stadt（9月28日）

「ここではユダヤ人だけが暮らし、働き、交易し、泳ぎ、踊る。街の言語はヘブライ語だ—古代の言語が復活した—しかし街自体は近代的で西洋的で、広い通りと魅力的な店がある。いたるところで、増え続ける人口に対応するために建設が進行している。」

「パレスチナのユダヤ人の大多数は楽観的で勤勉、理想主義的で、自分の汗で土地を築くつもりだ—通常ユダヤ人に適用されるステレオタイプとは正反対だ。」

パート4 – Die Kibbuzim und das Land（9月29日）

「キブツではすべての手が働く：男も女も子供も同じように。沼地が排水され、果樹園が植えられ、納屋が建てられる。ここでは新しいタイプのユダヤ人が生まれている—土に根ざし、土に近い。」

パート5 – Ben Shemen und die Jugend（9月30日）

「ベン・シェメンの青少年植民地では、若い開拓者が学問だけでなく労働にも訓練されている。彼らは土地を耕し、牲畜を世話し、規律をもって行進する。彼らの目には未来の精神が輝いている。」

パート6 – Die Jesreel-Ebene (10月1日)

「イエズレエル渓谷で、開拓者のリーダーであるベン・グリオンに会った。私たちの周りでは、かつて沼地と荒野だった場所が肥沃な農地に変わっていた。ここに住む開拓者は共同で生活し、すべてを共有し、新しい国家を築いているという確信を持っている。」

パート7 – Arabische Düfte (10月2日)

「私の前に老女たちが座っている。とても年を取った者はもはやベールをかぶっていないが、そうであつたらいいのにと思う…そしてこの汚い子供たち。バスは悲惨に揺れる。小さな女の子が乗り物酔いになった。アラブの匂いがすでに私たちを取り囲んでいたが、今は耐えられないものになった。私たちも窓から頭を出す。」

パート8 – Safad und der Norden (10月3日)

「サフェドでは、雰囲気が緊張している。アラブ人はイギリスに対してデモを行い、拳を振り、叫ぶ。ユダヤ人は小さな地区で、監視されたドアの後ろに留まる。ここでは明らかだ：アラブ人は進歩に抵抗する。」

パート9 – Hebron und die Vergangenheit (10月4日)

「私たちはヘブロンの焼け落ちたユダヤ人地区を通り過ぎた。廃墟は1929年の血なまぐさい日々を思い出させた、そこでアラブの暴徒が近隣の人々に襲いかかった。火で黒ずんだ石、空っぽの家、かつてユダヤ人の生活が栄えた場所での静寂。」

パート10 – Jerusalem und die heiligen Stätten (10月5日)

「嘆きの壁では、ユダヤ人が祈りをささやいていた。アラブ人が通り過ぎ、嘲笑し、叫び、侮辱し、彼らの信仰を妨害した。夜には、エルサレムのユダヤ人作家の集まりに参加した一會話で満たされたサロンで、古い伝統が若々しい再生と出会った。」

パート11 – Die Zukunft des Landes (10月6日)

「パレスチナにはさらに何千もの人々を受け入れる能力がある。すでに達成された進歩は、理想主義と労働が結びつくと何が可能かを示している。しかし、イギリス人は暴動を恐れて躊躇し、アラブ人は落ち着かなくなっている。」

パート12 – Eine Lösung der Judenfrage? (10月9日)

「パレスチナで、ユダヤ人の問題は解決策を見出す。ここでユダヤ人は生産的で、創造的で、土地と結びついている。ヨーロッパを悩ませる問題は、エレツ・イスラエルの土壤で癒される。」

ミルデンシュタインからアイヒマンへ

1935年までに、アドルフ・アイヒマンはミルデンシュタインの部門に加わりました。彼はヘルツルの **Der Judenstaat** を学び、ヘブライ語とイディッシュ語を覚え、自身を「シオニスト」と表現しました—信念からではなく、「ユダヤ問題」の解決策として移民を促進する手段として。

エヴィアン、移民の失敗、そして過激化

1938年7月、エヴィアン会議はユダヤ人難民について議論するために32カ国を集めました。ほとんどの国は移民枠の拡大を拒否しました。ドミニカ共和国だけが10万人分の土地を提供しましたが、実際に定住したのは数百人だけでした。

ナチのプロパガンダは喜びました：「ユダヤ人売り物—誰も欲しがらない。」シオニストの代表団はパレスチナにのみ焦点を当て、他の目的地を拒否しました。移民の失敗は、ナチの追放から絶滅への移行に貢献しました。

アイヒマン-ハガナの接触

1937年、ハガナのエージェント、ファイフェル・ポルケスはアイヒマンとヘルベルト・ハーゲンに会いました。ポルケスはイギリスに対する武器とナチの支援を求め、英國を共通の敵として提示しました。アイヒマンとハーゲンは偽の身分でパレスチナに旅行し、イギリスによって追放され、カイロで再びポルケスと会いました。合意には至りませんでしたが、このエピソードは両者の実際性—そして絶望—を示しています。

過去の影

ジェノサイド以前、ナチの政策には以下が含まれていました：

- **体系的な収奪** (ユダヤ人資産のアーリア化)。
- **市民権の喪失** (ニュルンベルク法)。
- **二重の法制度** (ユダヤ人対アーリア人)。
- **恣意的な拘禁** (初期のキャンプ)。

観察者は、今日のイスラエル/パレスチナにおける構造的類似点を指摘しています：土地の収奪、市民権の拒否、入植者とパレスチナ人のための別々の法制度、そして行政拘禁。

結論：人種ナショナリズムの二つの顔

シオニズムとナチズムは、結果において対立していましたが、共通の枠組みを共有していました。両者は同化を拒否し、分離を称賛し、アイデンティティを生物学的に定義する民族ナショナリストのプロジェクトでした。

Der Angriff のメダルは、スワスティカとダビデの星とともに、単なるコレクターの珍品以上のもので—ヨーロッパの反ユダヤ主義がヨーロッパで解決されず、パレスチナに輸出されたことを思い出させます。そこではパレスチナ人が、二つの人種ナショナリストのイデオロギーによって考案された「解決策」の犠牲者となりました。

参考文献

- **Der Angriff** (ベルリン)、号226-237 (1934年9月26日-10月9日)。
- ドイツのシオニスト連盟からアドルフ・ヒトラーへの覚書、1933年6月21日。
- ハーヴァラ協定、1933年8月25日。
- エヴィアン会議の記録、1938年7月。
- アイヒマンの証言 (エルサレム裁判、1961年)。
- ボアス、ジェイコブ。ナチがパレスチナへ旅し、**Der Angriff**でそのことを語る。History Today、1980年。
- ブレナー、レニ。独裁者の時代におけるシオニズム。ロンドン：Croom Helm、1983年。
- ブラック、エドウィン。移転協定：第三帝国とユダヤのパレスチナとの間の協定の劇的な物語。ニューヨーク：Macmillan、1984年。
- ニコシア、フランシス。第三帝国とパレスチナ問題。オースティン：University of Texas Press、1985年。
- セゲフ、トム。7番目の百万：イスラエル人とホロコースト。ニューヨーク：Hill and Wang、1991年。
- チェザラーニ、デビッド。アイヒマン：彼の人生と犯罪。ロンドン：Heinemann、2004年。
- ラクール、ウォルター。シオニズムの歴史。ロンドン：Tauris、2003年 [元は1972年]。
- ロンゲリッヒ、ピーター。ホロコースト：ナチによるユダヤ人の迫害と殺害。オックスフォード：OUP、2010年。